



## 平成28年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年7月31日

上場会社名 富士紡ホールディングス株式会社  
 コード番号 3104 URL <http://www.fujibo.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役  
 四半期報告書提出予定日 平成27年8月10日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(氏名) 中野 光雄  
 (氏名) 吉田 和司

TEL 03-3665-7612

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成28年3月期第1四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第1四半期	9,337	△5.0	783	△17.6	838	△11.7	529	△1.8
27年3月期第1四半期	9,832	3.3	950	39.5	949	33.2	539	51.1

(注) 包括利益 28年3月期第1四半期 625百万円 (4.1%) 27年3月期第1四半期 601百万円 (22.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第1四半期	4.54	—
27年3月期第1四半期	4.63	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第1四半期	48,373	24,756	51.2
27年3月期	48,677	24,830	51.0

(参考) 自己資本 28年3月期第1四半期 24,756百万円 27年3月期 24,830百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	6.00	6.00
28年3月期	—	—	—	—	—
28年3月期(予想)	—	0.00	—	6.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	19,500	△6.6	2,000	△18.7	2,050	△16.1	1,250	△12.8	10.72
通期	42,500	3.2	4,800	9.9	4,900	9.6	2,900	21.7	24.86

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

28年3月期1Q	117,200,000 株	27年3月期	117,200,000 株
----------	---------------	--------	---------------

② 期末自己株式数

28年3月期1Q	550,280 株	27年3月期	549,494 株
----------	-----------	--------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年3月期1Q	116,650,247 株	27年3月期1Q	116,661,190 株
----------	---------------	----------	---------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づくレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	4
(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期におけるわが国経済は、政府の経済対策や日銀の金融政策を背景に企業収益の改善や設備投資の増加など、景気は穏やかな回復基調を維持しています。しかしながら、消費税増税による消費者の節約志向により、個人消費は力強さに欠ける状況が続きました。加えて、欧州金融不安や新興国等海外経済の悪化懸念により先行きは不透明な状況となっています。

このような経営環境の下、当フジボウグループは、中期経営計画『邁進14-16』において重点事業と位置づけている研磨材事業、化学工業品事業、繊維事業の3事業を中心に営業力、開発力、生産力の強化を進め、あわせて収益性向上のための構造改革に取り組みました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は9,337百万円(前年同期比495百万円、5.0%の減収)で、営業利益は783百万円(前年同期比167百万円、17.6%の減益)、経常利益は838百万円(前年同期比110百万円、11.7%の減益)となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、529百万円(前年同期比9百万円、1.8%の減益)となりました。

セグメント別の業績は以下の通りであります。

#### ①研磨材事業

主力の超精密加工用研磨材は、液晶ガラス用途が回復し、シリコンウエハー用途、半導体デバイス用途(CMP)が堅調に推移したものの、ハードディスク用途はメディア在庫増に伴うユーザーの在庫調整により減少し、一般工業用途もユーザーの需要期が第2四半期以降にずれ込みました。

この結果、売上高は前年同期比295百万円(10.3%)減収の2,574百万円となり、営業利益も211百万円減益の541百万円となりました。

#### ②化学工業品事業

機能化学品および医薬中間体などの受託製造は、機能性材料を中心に安定生産を継続することができたものの、第3四半期に予定している新工場稼働に向けて、柳井工場・武生工場の生産ラインの組替、調整を実施しました。また、一部医薬中間体のユーザーへの納入が第2四半期以降にずれ込みました。

この結果、売上高は前年同期比325百万円(15.4%)減収の1,794百万円、営業利益も54百万円減益の55百万円となりました。

#### ③繊維事業

繊維事業においては、繊維製品は消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動が縮小し、定番商品、OEM製品を中心に回復基調となり、原糸紡績から生地編立、加工、製品縫製まで国内外のグループ内素材調達・製品生産機能を活用することで収益の改善を図りました。繊維素材は輸入原材料価格の高止まりなど厳しい環境が続きましたが、コスト上昇分の製品価格への転嫁を進め、採算改善に努めました。

この結果、売上高は前年同期比85百万円(2.4%)増収の3,739百万円、営業利益も64百万円増益の138百万円となりました。

#### ④その他

アジアから中南米への輸出をメインとする貿易部門では、農業用機械の輸出が増加しましたが、自動車関連は車輻およびタイヤの輸出が減少しました。化成品部門は、デジタルカメラ用部品が回復基調となり、新規用途として取り組んでいる医療機器用部品も拡大しました。精製部門は、原料となる廃液の減少が続きましたが、エネルギー費を中心に溶剤再生コストの削減に取り組みました。

この結果、売上高は前年同期比39百万円(3.3%)増収の1,230百万円となり、営業利益も32百万円増益の46百万円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

流動資産は前連結会計年度末に比べて713百万円減少の19,043百万円となりました。これは、たな卸資産が増加しましたが、法人税・配当金の支払などに伴い現金及び預金が減少したことによります。固定資産は前連結会計年度末に比べて409百万円増加の29,330百万円となりました。これは、主として化学工業品事業における設備投資により有形固定資産が増加したことによります。

この結果、総資産は前連結会計年度末に比べて303百万円減少の48,373百万円となりました。

### (負債)

流動負債は前連結会計年度末に比べて130百万円減少の14,856百万円となりました。これは、短期借入金、設備関係支払手形などが増加しましたが、未払法人税等などが減少したことによります。固定負債は前連結会計年度に比べて98百万円減少の8,760百万円となりました。これは、主として長期借入金の返済によるものです。

この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べて229百万円減少の23,616百万円となりました。

### (純資産)

純資産合計は前連結会計年度末に比べて74百万円減少し、24,756百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加が529百万円ありましたが、剰余金の配当による減少が699百万円あったことなどによります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの業績は、全体としては概ね予想通りで推移しており、通期の業績予想につきましては平成27年5月13日の公表時から変更しておりませんが、研磨材事業、化学工業品事業において一部商材のユーザーへの納入時期のずれが見込まれることから、第2四半期連結累計期間の業績予想を修正致しました。

なお、業績予想は現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、実際の数値は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### 原価差異の繰延処理

定期的な修繕が特定の四半期に行われるために発生する原価差異は、予定原価が年間を基礎に設定されており、原価計算期間末までに解消が見込まれるため、当該原価差異を繰り延べて処理する方法を採用しております。

### (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### (会計方針の変更)

#### 企業結合に関する会計基準等の適用

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、  
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)  
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、当第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第1四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,239	2,200
受取手形及び売掛金	9,652	9,634
商品及び製品	3,224	3,299
仕掛品	1,577	1,802
原材料及び貯蔵品	1,268	1,313
その他	805	803
貸倒引当金	△11	△10
流動資産合計	19,756	19,043
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,990	5,377
土地	13,994	13,959
その他(純額)	6,810	6,774
有形固定資産合計	25,795	26,112
無形固定資産	415	405
投資その他の資産		
その他	2,712	2,815
貸倒引当金	△3	△3
投資その他の資産合計	2,709	2,812
固定資産合計	28,920	29,330
資産合計	48,677	48,373

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年 3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年 6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,751	4,826
電子記録債務	505	500
短期借入金	4,426	5,521
未払法人税等	1,038	86
引当金	854	464
設備関係支払手形	667	1,321
その他	2,743	2,136
流動負債合計	14,987	14,856
固定負債		
長期借入金	870	759
退職給付に係る負債	4,676	4,680
資産除去債務	215	216
その他	3,096	3,104
固定負債合計	8,859	8,760
負債合計	23,846	23,616
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,673	6,673
資本剰余金	2,174	2,174
利益剰余金	12,752	12,605
自己株式	△63	△64
株主資本合計	21,536	21,389
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	748	823
繰延ヘッジ損益	△6	△3
土地再評価差額金	2,369	2,346
為替換算調整勘定	362	370
退職給付に係る調整累計額	△179	△168
その他の包括利益累計額合計	3,294	3,367
非支配株主持分	0	0
純資産合計	24,830	24,756
負債純資産合計	48,677	48,373



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1 四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1 四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	当第1 四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)
売上高	9,832	9,337
売上原価	6,602	6,213
売上総利益	3,230	3,124
販売費及び一般管理費	2,280	2,341
営業利益	950	783
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	20	21
固定資産賃貸料	42	58
補助金収入	5	30
その他	9	13
営業外収益合計	78	124
営業外費用		
支払利息	21	21
固定資産賃貸費用	15	16
その他	42	30
営業外費用合計	79	68
経常利益	949	838
特別利益		
固定資産売却益	—	0
特別利益合計	—	0
特別損失		
固定資産処分損	51	5
減損損失	15	38
その他	38	0
特別損失合計	105	44
税金等調整前四半期純利益	844	794
法人税、住民税及び事業税	250	121
法人税等調整額	53	142
法人税等合計	304	264
四半期純利益	539	529
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	539	529

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
四半期純利益	539	529
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	41	74
繰延ヘッジ損益	1	3
為替換算調整勘定	△17	7
退職給付に係る調整額	36	10
その他の包括利益合計	61	96
四半期包括利益	601	625
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	601	625
非支配株主に係る四半期包括利益	△0	0

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	研磨材 事業	化学 工業品 事業	繊維事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	2,869	2,120	3,653	8,642	1,190	9,832	—	9,832
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	—	0	3	0	4	△4	—
計	2,872	2,120	3,653	8,645	1,191	9,836	△4	9,832
セグメント利益	752	110	74	937	13	951	△0	950

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、自動車関連事業、化成品事業及び精製事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去が含まれております。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各報告セグメントに配分していない全社資産のうち、保有会社における利用計画がなく時価も下落している固定資産について減損損失を認識しました。

なお、当該減損損失の計上は、当第1四半期連結累計期間においては15百万円であります。

## Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 3
	研磨材 事業	化学 工業品 事業	繊維事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	2,574	1,794	3,739	8,107	1,230	9,337	—	9,337
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	—	—	2	—	2	△2	—
計	2,576	1,794	3,739	8,110	1,230	9,340	△2	9,337
セグメント利益	541	55	138	736	46	783	0	783

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、自動車関連事業、化成品事業及び精製事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去が含まれております。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各報告セグメントに配分していない全社資産のうち、保有会社における利用計画がなく時価も下落している固定資産について減損損失を認識しました。

なお、当該減損損失の計上は、当第1四半期連結累計期間においては38百万円であります。